

蔦 機械金属株式会社

お客様とのパートナーシップを大切に、
専門技術の一層の研鑽に励む。

当社は創業以来、お客様とのパートナーシップを第一に考え、業務に邁進してまいりました。それが当社の今日の礎になっていると確信しております。現在TSUTAを取り巻く環境は“グローバル化”“技術の高度化”“ITを使った効率化”など急ピッチで押し寄せてきています。これからもTSUTAはお客様に満足して頂ける企業を目指し、“ダイカスト”“金型”“機械加工”を三本柱とし、技術の向上、効率化ができる企業風土、人材育成に努めてまいります。

商号	蔦 機械金属株式会社
本社	〒670-0996 姫路市土山1丁目4-8
創業年	1922年(大正11年)4月
設立年	1922年(大正11年)4月
資本金	9,900万円
従業員数	345名(2021年3月末現在)
事業内容	アルミ合金ダイカスト、ダイカスト用金型、アルミ合金鋳物、精密機械加工



本社工場全景(1969年)

社会に役立つものづくりを、一味違う発想と技術力で

創業者・蔦 實が姫路市光源寺前20番地(現在の姫路市東駅前町)に「蔦工作所」を創立し、機械部品の製作や修理を始めたのは、1922(大正11)年4月1日のことでした。ほどなく洗米器や電池式自動車など民需品の製造を手がけますが、やがて株式会社播磨造船所や三菱電機株式会社、川崎航空機工業株式会社など日本の産業を担う重工業メーカー向けの機械部品や電装品の製作を請け負うようになります。こうした仕事の変化を表すように、社名も、株式会社蔦機械工作所(1937年)、蔦産業株式会社(1946年)、そして蔦機械金属株式会社(1949年)へと変わり、仕事内容も現在のダイカスト鋳造へとつながっていきます。



本社ダイカスト工場(2005年)

日本の産業界とともに、技術を磨き、体質を改善

1962(昭和37)年、蔦 實の後を継ぎ、社長に就任した蔦 淑雄は、自動車用部品を中心に産業を支える鋳物製品の鋳造にフォーカスし、日本の経済成長とともに業容を拡大していきました。本社工場を現在地に移転拡張し、機械工場を増設。ダイカスト工場、金型工場などを建設し、現在の基礎をつくったのもこの頃です。以降、客先製品の進化とともに技術を磨き、1970年代、80年代にはオイルショックや国際的な競争激化、日米貿易摩擦など年々厳しくなる時代の潮流に対して組織改革、体質改善を行い、危機を乗り越えてきました。そして1990年代末には、飾東工場、白浜工場の設立に着手。新しい時代に備えます。



広畑工場(2020年)

先が見えない状況のなか、電気自動車時代への布石を着々と

2000年代に入ると、製造技術や品質とともに低コスト化や生産効率の向上が求められ、働き方やSDGsなど環境への配慮も重要な課題となりました。一方で、電気自動車の普及に向け、100年に一度の変革期が迫っています。そのようななかリーマンショックや東日本大震災なども勃発しました。こうした先が見えない状況のなか、当社は、2004(平成16)年に社長に就任した蔦 昌樹現社長のもとツタタイランド株式会社を設立。2017年にTPM優秀賞を受賞し、2020年には電動車の部品等を生産する、環境に最大限配慮した最新鋭の広畑工場を建設しました。100周年を迎えた今年、新たな5か年計画をスタートさせ、全社一丸となって新しい時代に挑んでまいります。



オルタネータブラケット



スタータブラケット

since
1922

本社工場(2005年)

